

## 薬物血中濃度を測定することで薬剤の適正使用に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、腎機能に応じた薬剤量の提案、薬物血中濃度測定を通して薬剤の適正使用に貢献した事例のプレアボイドを紹介いたします。

### 患者背景

▶心房細動に対し加療中の入院患者

【新しく処方を予定している薬剤】  
ジゴキシン



Sさん



医師

Sさんの治療にジゴキシンを検討しているのですが、腎機能が低下しているので、投与量も減らした方がいいでしょうか？



なるほど。早速ハーフジゴキシン KY 錠を処方します。



薬剤師

ジゴキシンは腎排泄型の薬剤なので、減量が必要だと思います。Sさんの腎機能だと、1回 0.125mg24 時間ごとの投与量が推奨されていますので、ハーフジゴキシン KY 錠 0.125 を 1日 1回 1錠で開始するのはどうでしょう。また、ジゴキシンは有効血中濃度域が狭い薬剤なので、投与開始後に血中濃度を測りながら投与量を調節するのがいいと思います。

内服開始後、血中濃度を測定。ジゴキシンの血中濃度は 1.53ng/mL であった。  
※当院のジゴキシンの有効血中濃度域の目安：0.5~2.0ng/mL



では、減量後、血中濃度を再度測定します。



ジゴキシンの血中濃度測定ありがとうございました。有効血中濃度域内ではあるのですが、やや高めを推移しているため、1回 0.5 錠に減量してもいいと思います。

その後、ハーフジゴキシン KY 錠 0.125 1日 1回 0.5 錠に減量され、血中濃度は有効血中濃度域を推移した。

薬物血中濃度を測定し、投与量を調節することで、薬剤の適正使用に貢献できた。